

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：保健予防費 目：感染症予防費

事業名 感染症発生動向調査費（新型コロナ分）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

健康福祉部感染症対策推進課 感染症対策第二係 電話番号：058-272-1111（内 3352）

E-mail：c11237@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 964,511 千円（前年度予算額：136,608 千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	136,608	68,304	0	0	0	0	0	0	68,304
要求額	964,511	482,255	0	0	0	0	0	0	482,256
決定額	964,511	482,255	0	0	0	0	0	0	482,256

2 要求内容

（1）要求の趣旨（現状と課題）

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、感染症の発生状況を把握・分析し、これらの情報を公表することにより、感染症の発生およびまん延を防止することを目的として実施されている調査事業である。

新型コロナウイルス感染症は感染拡大を繰り返しており、いまだ終息の目途が立っていない。ついては、感染拡大防止のため、検査体制および保健所業務体制を整備する。

（2）事業内容

新型コロナウイルス感染症の検査を実施するため、必要となる試薬等の経費を調達する。また、疫学調査や検体採取等の業務を適切に行うため、保健所の体制を整備する。

（3）県負担・補助率の考え方

国 1 / 2 県 1 / 2

(4) 類似事業の有無
無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	3,563	外国語通訳報償費、大学教員による保健所応援経費
旅費	3,880	検体搬送に係る自家用車燃料費、大学教員による保健所応援経費
消耗品費	680,403	検査消耗品費、検体採取に係る消耗品費
燃料費	1,470	検体搬送に係る公用車燃料費
役務費	34,859	検体郵送代、疫学調査通信料、検査機器インターネット接続代
保険料	20	大学教員による保健所応援経費
委託料	237,005	感染性廃棄物処分委託料、多言語電話通訳業務委託料、保健所支援業務委託料、ドライブスルー検査検体採取業務委託料
使用料	3,311	検体搬送に係る高速道路使用料
合計	964,511	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・岐阜県感染症予防計画
- ・岐阜県新型コロナウイルス感染症対策

(2) 国・他県の状況

- ・新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針
(新型コロナウイルス感染症対策本部)
- ・愛知県新型コロナウイルス感染拡大予防対策指針
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた『三重県指針』

(3) 事業主体及びその妥当性

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく調査として、国立感染症研究所を中心として、全国の都道府県や保健所設置市等の地方衛生研究所で実施されている。

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、検査体制および保健所業務体制を整備する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
						%
①						%
②						%

○指標を設定することができない場合の理由

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を予測することができないため。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に対する行政検査（PCR検査）を31,077件（外部検査機関委託分を含む）実施した。 岐阜県保健環境研究所（地方衛生研究所）に全自動PCR検査装置を配備し（令和3年5月使用開始）、検査体制を強化した。
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加

指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価)	新型コロナウイルス感染症に係る検査・疫学調査の需要は増加傾向であり、本事業の必要性は増加している。
3	
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価)	検査対象者・患者が急増している状況下で、速やかに検査を実施し、また、保健所職員による患者1人1人への積極的疫学調査実施体制を維持している。
2	
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価)	全自動PCR検査装置の導入により、検査能力が飛躍的に向上した。また、職員増員や業務委託等の保健所体制整備により、より多くの検査・疫学調査への対応が可能となっている。
2	

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 新型コロナウイルス感染症の感染拡大時期・規模を予測することができず、その都度需要を見直し、体制を整備する必要がある。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 新型コロナウイルス感染症終息の目途は立っておらず、継続すべき事業である。県内の感染状況や国の方針等をふまえ、必要な体制を整備していく</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	<p>【〇〇課】</p>
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	